に伴う contamination などを議論した．また Röttger および Larsen は，西独 SOUSY レーダーなどによる研究例を紹介した．

Chung-Li レーダーは，地理的に日本の京大 MU レーダーとインドネシアに計画中の赤道レーダー（山中・中村，1989；山中他，1990；加藤他，1990等参照）との間に位置し，従って赤道・西太平洋域の大気圏総合観測ネットワークの意味において国際赤道大気観測所（ICEAR）計画と無縁ではない．今回のワークショップはで，Kato および Wiryosumarto がそれぞれ日本側およびインドネシア側の計画を紹介した．さらにワークショップ終了の翌19日に台北市内において，加藤教授を中心に，日本インドネシア科学技術フォーラム（JIF）の所沢事務局長らも参加して，ICEAR 計画に関する打合せが行われた．

過去10年ほど大型レーダー観測の中心を占めていた中層大気については，Fukao の渦拡散係数，Tsuda の重力波に関する最近のそれぞれの研究の review 的講演，Yamanaka の準単色波のモデル化の話，Nakamura の MU および Adelaide レーダー観測に基づく中間圏重力波の気候学などの他，Chu, Su および Nakamura が流星エコー観測を用いた中間圏界面付近の風速測定結果についてホットな議論を展開し，最後に Fukao が電離圏に関する最近の MU レーダー観測を review した．何れも MAP 期のケーススタディの脱却を志向しており，これまでに指摘されたスペクトルなどに見られる普遍性のほかに，季節変化傾向などに関する新たな知見が見出されている．

おしまいに，筆者は今回が初めての訪問であったが，発展著しい NIES の雄・台湾の実力が大学キャンパス（米国の大学並みの広々とした感じ）の内外に見受けられた．会議の運営は蘇教授以下（pretty かつ considerate な）秘書嬢ならびに学生諸氏によって極めてスムーズに運営され，初日終了後の余学長主催の晩餐会のみならず期間中の昼食にも食べきれない程の美味しい中華料理が用意されるなど，終始歓待を受けた．アジア地区の大型レーダー観測の貴重な仲間として，お互い今後の一層の発展への努力を誓い合った数日間であった．なお，日本側メンバーの本ワークショップ参加については，深尾教授ならびに松野東大教授の委任経理金に拠った他，JIF にも後援を仰いだので，これらの関係各位にも厚く御礼申上げる次第である．

## 文　献


加藤　進・山中大学・山形俊男・上田　博・岩坂泰信・高橋　劭，1990：「インドネシア地域における赤道大気観測に関する国際シンポジウム」の報告，天気，37，477-482.

山中大学・中村卓司，1989：パダン・ブキティンギ訪問記，天気，36，650-652.

————・佐藤　薫，1989：大型レーダー国際学校（ISAR）および第4回 MST レーダーワークショップの報告，天気，36，269-274.

————・山本　衛・廣田　勇・福西　浩・近藤　豊・田中　浩，1990：ブキティンギ訪問記（その2），天気，37，308-310.


# 平成2年度（第27回）秩父宮記念学術賞推薦要項

**趣旨**：秩父宮記念学術賞は，秩父宮殿下が，財団法人日本学術振興会総裁として，我が国の学術振興のために多大の尽力をされた御事蹟を記念して昭和38年度に制定されたもので，秩父宮殿下が格別に深い関心を寄せられた「山」に関する科学で顕著な業績を挙げた者に授与される．受賞者の選考および授賞は日本学術振興会が行う．

**授賞の対象**：「山」に関する個人またはグループによる学術上顕著な研究調査の業績で，次の各条件を満たすものを対象とする．

① 山に関する学術的研究調査であること．

② 山における自らの実地研究調査活動を中心とするものであること．

③ 新しい知見またはデータの収集等により，新領域の開拓または研究の進展に貢献すると認められるものであること．

④ 学術文献として公刊されているものであること．

（現在印刷中等のもので，平成2年12月末までに必ず公刊されるものを含む）

**推薦の締切期日**：平成2年10月20日（土）

（気象学会提出締切期日：10月12日）